



エコガラスの上位グレードとして 「エコガラスS」が登場しました！

2019年6月、JIS R 3209:2018 (複層ガラス) の改正に合わせて高性能Low-E複層ガラス「エコガラスS」が登場しました。

JIS R 3209:2018 (複層ガラス) では、断熱性による区分が6つのランクに細分化されました。「エコガラスS」は、JISの断熱性能区分の上位ランクであるT5、T6とし、ガラスの熱貫流率が $1.5\text{W}/(\text{m}^2\cdot\text{K})$ 以下のものが対象となります。

JISの断熱性能区分	ガラスの熱貫流率 $\text{W}/(\text{m}^2\cdot\text{K})$	エコガラス区分	エコガラスマーク	代表的なガラス仕様	
T6	1.1以下	エコガラスS		・ダブルLow-E三層複層ガラス (中空層9ミリ×2)	
T5	1.1超え、1.5以下				・アルゴンガス入りLow-E複層ガラス (中空層12ミリ)
T4	1.5超え、1.9以下	エコガラス		・アルゴンガス入りLow-E複層ガラス (中空層6ミリ)	
T3	1.9超え、2.3以下				・Low-E複層ガラス (中空層12ミリ)
T2	2.3超え、2.7以下				
T1	2.7超え、4.0以下				

また、従来のエコガラスは下記のように3グレードに分かれていましたが、今後はエコガラスまたはエコガラスSの2タイプに大別されるため、よりわかりやすくなります。

〈従来のエコガラス区分〉

タイプ	マーク	断熱性能 (U値: $\text{W}/(\text{m}^2\cdot\text{K})$)
○タイプ		2.33以下
□タイプ		2.33超、2.70以下
□タイプ		2.70超、4.00以下

※エコガラスは、一般社団法人 板硝子協会の会員であるAGC(株)、日本板硝子(株)、セントラル硝子プロダクツ(株)の3社が製造するLow-E複層ガラスの共通呼称です。

「エコガラスS」は省エネへの貢献をします！

新築住宅ではより省エネ性能の高いZEHやZEH+（プラス）の普及が進んでおります。「エコガラスS」は、ZEHの「強化外皮基準」では省エネ地域区分の1地域から3地域、ZEH+（プラス）の「更なる強化外皮基準」を満たすのに貢献します。 ※一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会「ZEHのつくり方」より

外皮熱貫流率と窓の熱貫流率の例

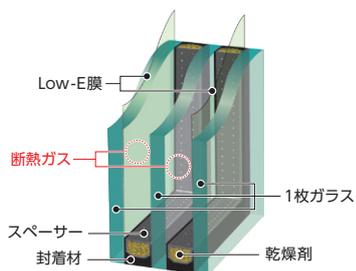
		[W/(m ² ·K)]						
		1地域	2地域	3地域	4地域	5地域	6地域	7地域
省エネ基準	外皮平均熱貫流率	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87
	窓の熱貫流率の例*1	2.33	2.33	2.33	3.49	4.65	4.65	4.65
ZEHロードマップ 強化外皮基準	外皮平均熱貫流率	0.4	0.4	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6
	窓の熱貫流率の例	1.9	1.9	1.9	2.33	2.33	2.33	2.33
ZEH+の選択条件の1つ 更なる強化外皮基準	外皮平均熱貫流率	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5
	窓の熱貫流率の例	1.3	1.3	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9

※窓の熱貫流率が1.3と1.9W/(m²·K)は、「エコガラスS」が求められます。

*1：開口部比率(ろ)における仕様基準

エコガラスとサッシの組み合わせ例

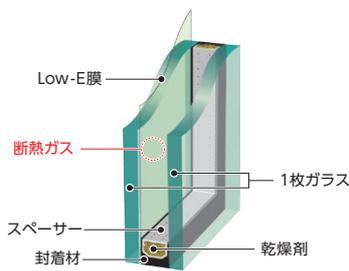
窓の熱貫流率 1.3 [W/(m²·K)]



ダブルLow-E三層複層ガラス
中空層9ミリ以上/断熱ガス入り/樹脂サッシ

エコガラスS

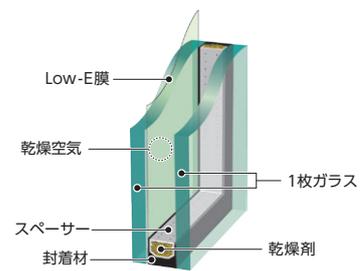
窓の熱貫流率 1.9 [W/(m²·K)]



Low-E複層ガラス
中空層12ミリ以上/断熱ガス入り/樹脂サッシ

エコガラスS

窓の熱貫流率 2.33 [W/(m²·K)]



Low-E複層ガラス
中空層10ミリ以上/アルミ樹脂複合サッシ

エコガラス®

「エコガラスS」は快適性・健康面にも優れています！

最近では省エネ性に加え、室内温度の快適性の低さによる健康への影響もしばしば問題となっております。寒い季節は寝室からトイレへの移動時や浴室と脱衣所の温度差でヒートショックを起こす健康被害が多く報告されております。「エコガラスS」の導入、外皮の断熱性能の向上は、快適性、健康面においても大幅な改善が期待できます。

お問い合わせは下記までお願い致します。

機能ガラス普及推進協議会
一般社団法人 板硝子協会